

# 2021年国連ユニタール青少年大使事業 最終レポート

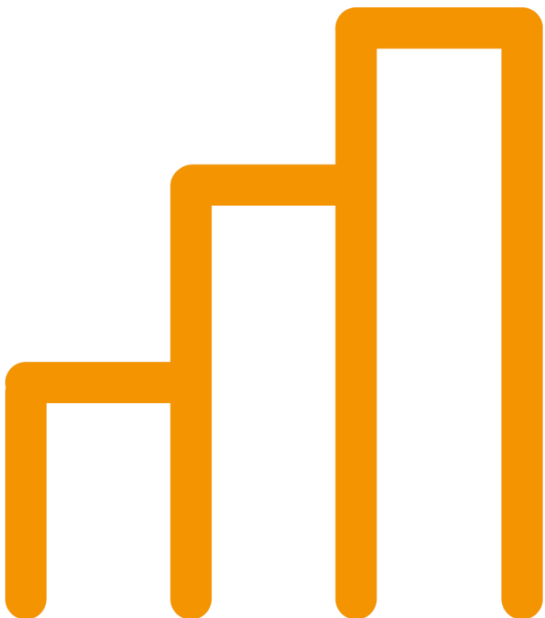
2021年3月 日本、広島県広島市





# 2021年国連ユニタール青少年大使事業 最終レポート

2021年3月 日本、広島県広島市



## 事業概要

国連ユニタール広島青少年大使プログラムは2010年に開始され、現在の国際社会における課題や課題に対する国連の取り組みなどに対する高校生たちの理解を深めるだけでなく、彼らが将来国際舞台において活躍するために必要とされるスキルを身に着けることを目的としています。ユニタールではこの青少年大使プログラムを地域密着型の取り組みの中でも中心的な事業の一つとして位置付けています。2010年から2020年の間、延べ100人程度の広島県内の高校生が参加しており、応募者も年々増加するなど、県内での知名度も年々高まっています。

本プログラムでは、青少年大使としての活動を通じて2015年9月の国連サミットで採択された世界共通の開発目標「持続可能な開発目標（SDGs）」への理解を専門家からの講義を基に深めるとともに、チームワーク能力やプレゼンテーション能力を身に着けることを目標において実施されました。2020年度は県内77名の高校生から応募があり、志望動機及び小論文を基に選考を行った結果18校24名が選ばれました。また、新型コロナウイルスの影響から、今まで対面型で研修していたところ、すべてオンラインで実施しました。

2020年度のプログラムは計6回のワークショップと最終プレゼンテーションによって構成されました。青少年大使たちはあらかじめ、ユニタールが抽出した持続可能な開発目標の4つのゴールの中から自分が興味のあるゴールを1つ選び、6人のチームになりました。前半3回のワークショップ青少年大使たちは、SDGsの概要とその4つのゴールに関わって

る専門家の方々の講義を聞きました。後半のワークショップではプレゼンテーションの中間発表を通して自分たちのプレゼンテーションスキルの見直しを行うとともに、2019年ユニタールイラクプログラムの研修修了生との交流会を行いました。また、今回国際学生会議所

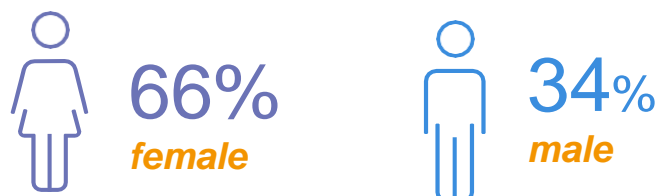
(UNISC)の大学生の皆さんに大使たちのメンターとなっていただき、グループワークのサポートをしていただきました。また、学習を深めることを目的に、オンデマンド学習による補修も取り入れました。

青少年大使たちにとって、本研修はSDGsに関する学びを深める機会となったとともに、自身のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を見直すいい機会となったと思います。

ユニタール広島事務所は、本プログラムへの参加が青少年大使たちにとって、誰一人取り残されることのない平和な世界の達成に取り組むグローバル・リーダーになるための第一歩となることを願います。

ユニタールはこの場を借りて、今年度の青少年大使プログラムの開催及び実施をご支援くださった国際ソロプチミスト平和広島様、国際ソロプチミスト広島—中央様、広島県（後援含む）、広島市（後援）、中国新聞社様（後援）に心より御礼申し上げます。

次頁より、各回のワークショップの様子について報告させていただきます。



## 第1回ワークショップ（7月26日）

第1回ワークショップでは、アイスブレーキングと、高木超慶応大学特任によるSDGsの概要を学ぶ講義がありました。今回、オンラインの実施であることから、対面でのちょっとした会話が青少年大使同士で難しいことから、アイスブレーキングの時間を1時間程度設けて、他己紹介をしあってもらいました。お互い初対面ながら、話に花が咲き、共通点も多く見つけることができたとの声がありました。

高木先生によるSDGsの概要の講義では、SDGsを意識して日常の出来事やニュースを見ることの大切さや、SDGsの目標が互いに関連しあうことを学びました。青少年大使の皆さんは積極的にチャット上で発言や質問をしていました。



開会式。ユニタール持続可能な繁栄局長兼広島事務所長隈元氏や、一般社団法人国連ユニタール協会理事長大島賢三氏によるウェルカムメッセージもありました。

### スウェーデンの内閣



高木先生の講義を聞いている様子

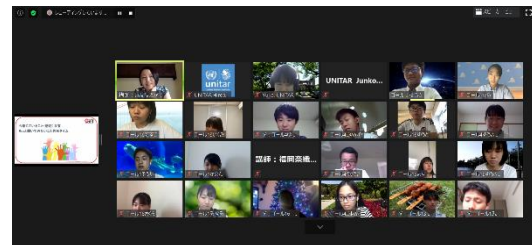
## 第2回ワークショップ（8月2日）

第2回ワークショップでは、ゴール4質の高い教育をみんなに、とゴール16 平和と公正をすべての人に、について、それぞれ一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）代表理事辰野まどか先生とつむぎ屋主幸福岡奈織先生からお話がありました。

質の高い教育をみんなの講義では、辰野先生の経験を基に日本の教育の課題や、自分にとって居心地のいい場所にとどまるのではなく、チャレンジする場所に挑戦することの大切さを学びました。

平和と公正をすべての人に、の講義では広島・長崎の原爆だけではない核被害の実態を学びました。

質疑応答も盛んにおこなわれました。また、その後のグループディスカッションでは最終プレゼンテーションに向けて活発に意見交換がありました。



辰野先生の講義の様子



福岡先生の講義の様子

### 第3回ワークショップ (8月17日)

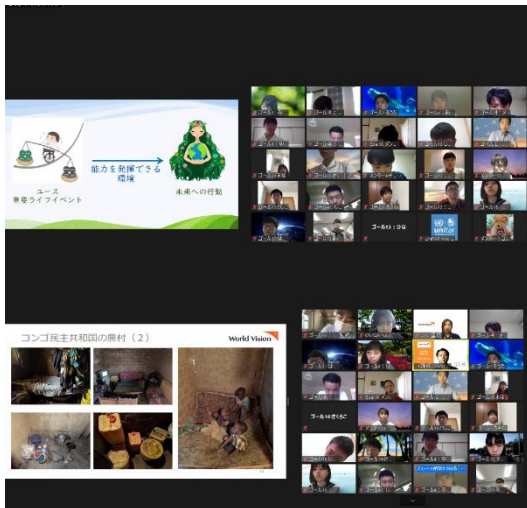
第3回ワークショップでは、ゴール13気候変動に具体的な対策を、と、ゴール1 貧困をなくそうについて、それぞれ地球戦略研究機関(IGES)の武田先生とワールド・ビジョン・ジャパンの望月亮平先生にご登壇いただきました。

武田先生からは、気候変動に関する世界的な現状と、その対策への動きを話してもらうとともに、若者に何ができるかを言及してもらいました。

望月先生からは、貧困の定義や多様性を話してもらうとともに、ワールド・ビジョン・ジャパンさんが実施しているアフリカでの貧困対策について話してもらいました。

第3回までの講義やオンデマンド学習での学びを通して、青少年大使たちは、自分たちがこれから発表していく予定のゴールについての考察を深めていったようでした。

グループディスカッションでも、具体的にプレゼンテーションの内容を詰めていこうとする様子が見受けられました。



第3回での講演の様子

### 第4回ワークショップ (9月5日)

第4回ワークショップでは、最終プレゼンテーションに向けた中間発表をするとともに、2019年ユニタールイラクプログラムの研修修了生との交流会を実施しました。

中間発表では、プレゼンテーションのアウトラインや今まで調べたことの発表をしてもらいました。他のグループの発表やユニタールのスタッフによるフィードバックを通して、内容の見直しを図るとともに、効果的なプレゼンテーションについて、学びました。

その後のイラクプログラムの研修修了生との交流会では、イラクの歴史や文化を学ぶとともに、自分たちが調べている4つのゴール、「ゴール1：貧困をなくそう」、「ゴール4：質の高い教育をみんなに」、「ゴール13：気候変動に具体的な対策を」、「ゴール16：平和と公正をすべての人に」について、それぞれイラクにおける現状を学びました。

研修の最後には平和への思いを胸に、それぞれが作成した折り鶴とともに、写真を撮りました。



折り鶴を持った形での集合写真

## 第5回ワークショップ（9月26日）

第5回ワークショップでは、最終プレゼンテーションに向けた中間発表をするとともに、2019年ユニタールイラクプログラムの研修修了生との交流会を実施しました。

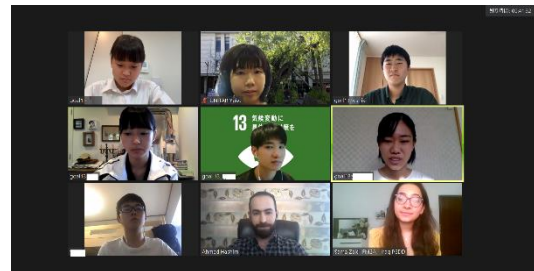
中間発表も2回目となり、プレゼンテーションのコンテンツもだいぶ練り上げられたものになっていきました。

その後のグループワークでは、プレゼンテーションをいかにブラッシュアップしていくかをみんな熱心に話していました。

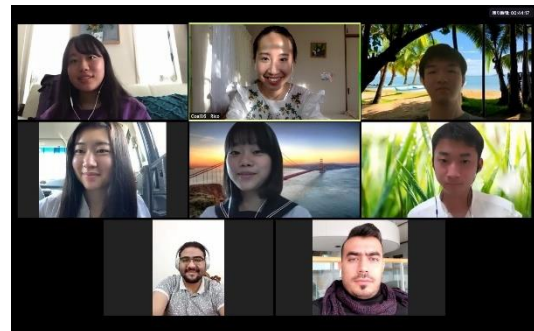
その後の交流会では、実際に英語を用いて、イラクの人々に第4回の交流会でのプレゼンテーションに関する質問や将来のことについて、話しました。

国際交流は初めて、という大使たちも多く、最初はぎこちない様子でしたが、日本とは違うSDGsに関する考え方、概念を知ることができ、とても勉強になったようでした。

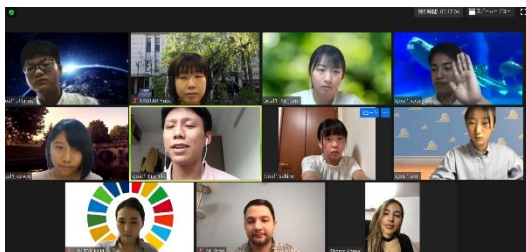
グループ「ゴール4」での交流会の様子



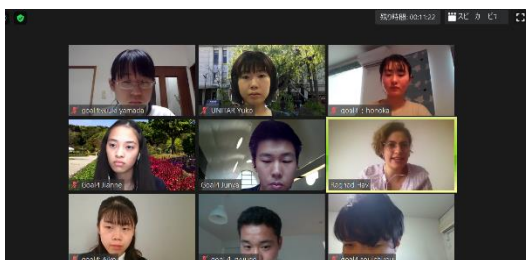
グループ「ゴール13」での交流会の様子



グループ「ゴール16」での交流会の様子



グループ「ゴール1」での交流会の様子



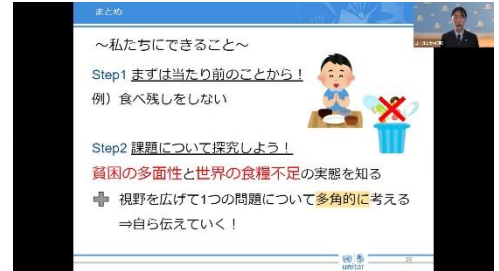
集合写真

## 第6回ワークショップ（10月24日） 最終プレゼンテーション

最終プレゼンテーションは、10月24日（土）国連デーにオンライン上で実施されました。学校関係者や大使たちの家族を中心に、一般参加者が51名参加し、大使たちの報告を視聴しました。

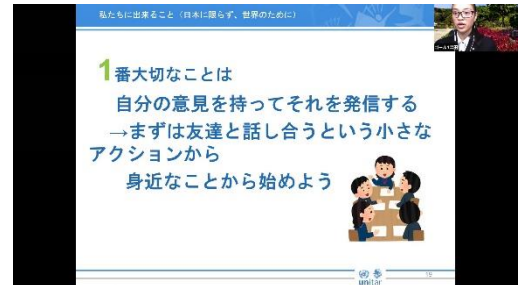
### 1 グループ「ゴール1：貧困をなくそう」の発表

貧困とは何かの定義づけから始まり、貧困問題の一つである「食糧不足」について、教育・農業・交通インフラ・内政と国際関係の4つの視野から考察し、その課題に対して自分たちに何ができるかを考察しました。



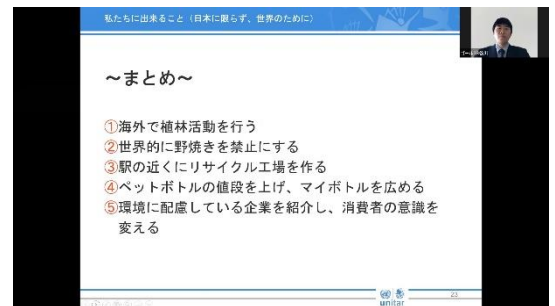
### 2 グループ「ゴール4：質の高い教育をみんなに」の発表

世界の状況と日本の状況について、それぞれ、現状・課題・解決方法の3つを探っていました。また、Google・フォームを用いて、グループメンバーの高校の生徒たちを対象にアンケートを行い、学校生活で感じている課題やSDGsに対する知名度の調査も行いました。



### 3 グループ「ゴール13：気候変動に具体的な対策を」の発表

気候変動・温室ガス・植林・野焼き・ごみ処理といった気候変動に関連する課題の現状分析と解決策の提案を行いました。また、CO2削減の取組に不可欠な企業活動についても、現状の取組を調べるとともに、解決策の提案を行いました。



### 4 グループ「ゴール16：平和と公正をすべての人に」の発表

日本だけではなく核被害をテーマに、広島県民360人を対象に行ったオリジナルアンケートの報告や、トリニティやマーシャル諸島で行われた核実験や被爆者の現状の考察、日本における平和活動の現状や問題点、また平和活動の紹介を行いました。また、Instagram共同アカウントの立ち上げ報告も行いました。



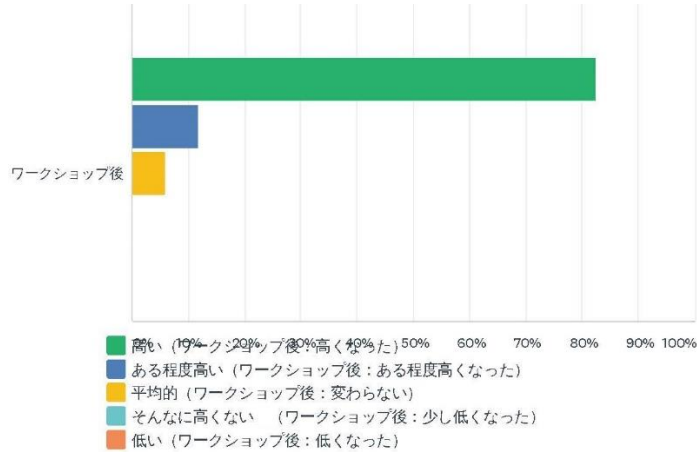
最終プレゼンテーション終了後に修了式を行いました。皆それぞれ、青少年大使プログラムをとおしてどんなことを学んだかを発表してくれました。

## 研修終了後のアンケートについて

研修後に実施したアンケートについては、24人中22人が回答してくれました。（うち5人は後半の質問をスキップ）その中のいくつかの回答について抽出して紹介します。

### 1 SDGsについて取り組んでいこうという意欲の度合い

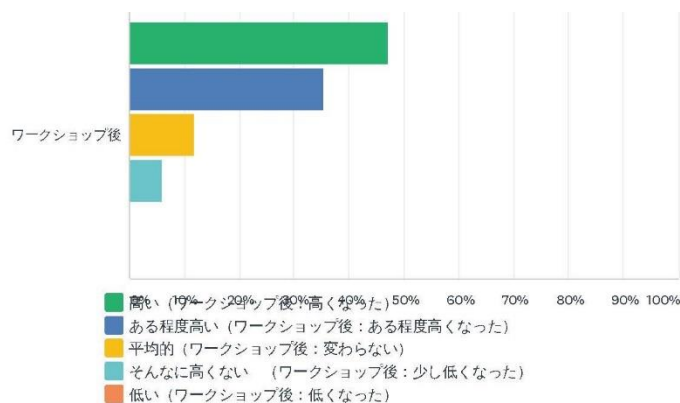
ワークショップ前に比べて、ワークショップ後意欲が高くなったと回答した人が82.35%でした。



	高い (ワークショップ後: 高くなった)	ある程度高い (ワークショップ後: ある程度高くなった)	平均的 (ワークショップ後: 変わらない)	そんなに高くない (ワークショップ後: 少し低くなった)	低い (ワークショップ後: 低くなった)	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
ワークショップ前	0.00% 0	58.82% 10	29.41% 5	11.76% 2	0.00% 0	17	3.47
ワークショップ後	82.35% 14	11.76% 2	5.88% 1	0.00% 0	0.00% 0	17	4.76

### 2 SDGsを実現するための能力

ワークショップ前に比べて、ワークショップ後能力が高くなったと回答した人が47.06%、ある程度高まったという人が35.29%でした。

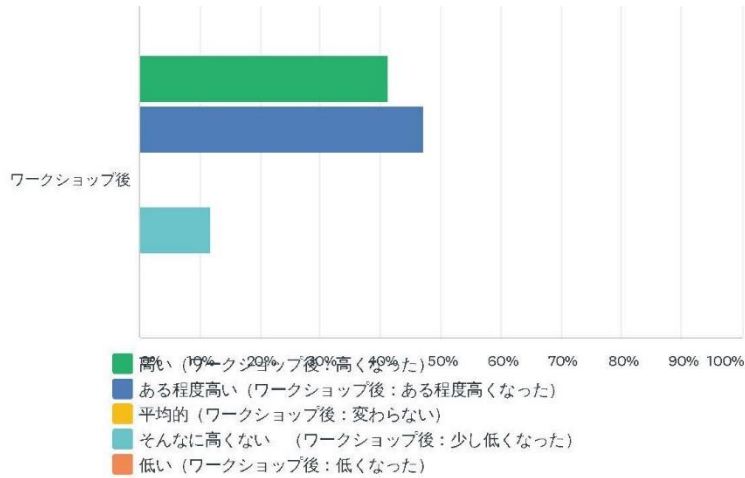


	高い (ワークショップ後: 高くなった)	ある程度高い (ワークショップ後: ある程度高くなった)	平均的 (ワークショップ後: 変わらない)	そんなに高くない (ワークショップ後: 少し低くなった)	低い (ワークショップ後: 低くなった)	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
ワークショップ前	0.00% 0	23.53% 4	41.18% 7	29.41% 5	5.88% 1	17	2.82
ワークショップ後	47.06% 8	35.29% 6	11.76% 2	5.88% 1	0.00% 0	17	4.24



### 3 チームでソリューションを見つける力

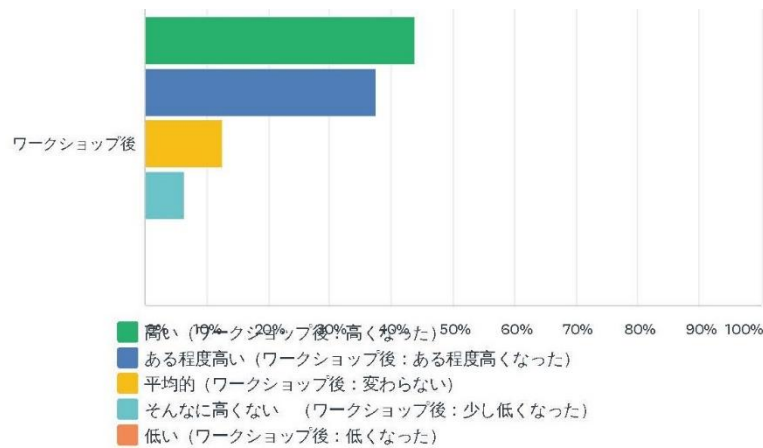
ワークショップ前に比べて、ワークショップ後能力が高くなったと回答した人が41.18%、ある程度高まったという人が47.06%でした。



	高い (ワークショップ後：高くなった)	ある程度高い (ワークショップ後：ある程度高くなった)	平均的 (ワークショップ後：変わらない)	そんなに高くない (ワークショップ後：少し低くなった)	低い (ワークショップ後：低くなった)	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
ワークショップ前	5.88% 1	5.88% 1	58.82% 10	23.53% 4	5.88% 1	17	2.82
ワークショップ後	41.18% 7	47.06% 8	0.00% 0	11.76% 2	0.00% 0	17	4.18

### 4 自分の考えを発信する力

ワークショップ前に比べて、ワークショップ後能力が高くなったと回答した人が43.75%、ある程度高まったという人が37.5%でした。



	高い (ワークショップ後：高くなった)	ある程度高い (ワークショップ後：ある程度高くなった)	平均的 (ワークショップ後：変わらない)	そんなに高くない (ワークショップ後：少し低くなった)	低い (ワークショップ後：低くなった)	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
ワークショップ前	11.76% 2	23.53% 4	41.18% 7	11.76% 2	11.76% 2	17	3.12
ワークショップ後	43.75% 7	37.50% 6	12.50% 2	6.25% 1	0.00% 0	16	4.19

## 5 全体的な感想

感想として以下のような感想が青少年大使から出てきました。

- ユニタールに参加して、あらゆる問題について学び、青少年大使とディスカッションをする中で自分の中でこれらの問題をどうにかしないといけないという思いが芽生えました。1人の力はすごく小さなものかもしれませんが、大人の方や同世代のみんなと話をしていると何でもできるような気がします。これからもユニタールで学んだことを活かし、未来を担っていく者として活動していきます。
- 最初は参加するか迷ったけれど、同世代の人たちと様々な考えを共有することで考えを深めることができ、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。
- コロナ禍で国際問題について考える場が少ないなかで、このようなプログラムに参加することができて本当に良かったとおもっています。メンターの皆さんや講師の方々にはたくさんの知識を教えてくださいました。また、ユニタールのスタッフの皆さんはユースアンバサダーがスムーズに活動を行うことができるようにあらゆるサポートをしてくださいました。ありがとうございます。アンバサダーとしての活動はここで終わりではなく、ここからがスタートだと思っています。今回得た知識と経験をフル活用して、活動をおこなっていきます。
- 初めての（オンラインでの）試みにも関わらず最大限の支援をしてくださりありがとうございました！
- 本当にすばらしい経験をさせていただき、ありがとうございました。自分でも予想していなかったくらい、自分自身の成長を感じる機会になりました。今後もこの貴重な経験を活かして、いろんなことに取り組んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。
- あっという間でしたが本当にありがとうございました。このプログラムに参加する前は深くSDGsについて考える機会はありませんでしたが、たくさんの講師の方の講演やイラク実習生の方との交流を通して、多くのことを学習することが出来ました。このような機会を与えて下さり本当にありがとうございます。私は他の大使の皆さんと意見を交流していき、考えが深まり、多くの知識を身につけ成長することが出来ました。このプログラムで学んだことを、これからの生活に生かし、今私たちにできることはなにかを考え、行動に移していこうと思います。本当にありがとうございました。
- SDGsに関する外部の先生方によるプレゼンテーションは大変参考になりました。また他のグループによるプレゼンテーションも、クオリティが高くとても良い刺激を受けました。
- 初対面の人と協力していくことで、新しい考え、方法を学ぶことができました。
- 今回このような機会を与えて頂き本当にありがとうございました。とても勉強になりました。こんな考え方もある！そんなアイデアも！と発見ばかりで楽しかったです。やはり、コロナ対策をした上で直接会ってプレゼンをチームでつくる場を作って欲しかったです。
- やはり、オンラインではなく対面で行いたかったです。実際にYAの方とあう機会が欲しいです。



# Knowledge to Lead

